

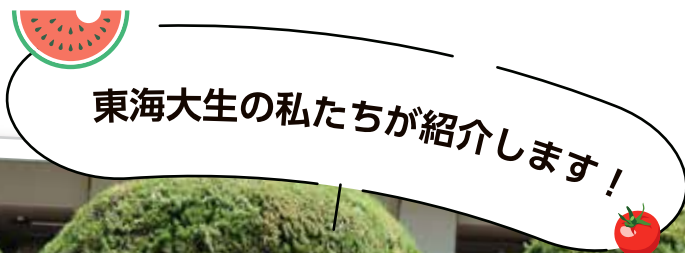


1 分析

- 町、もへじ、JALが「JALふるさとプロジェクト」として、町の農産物を使った商品開発を決定
- 町、もへじ、上益城農業協同組合が協力して、町農産物の原料調査を実施し、使用産品をスイカとミニトマトに決定



ミニトマトのハウスで農家さんから説明を受けるもへじの担当者



商品開発サークルの2、3年生8人と、普段商品開発に関わることのない基盤工学部電気電子情報工学科の4年生3人からなる学生チーム



町職員から特産品開発プロジェクトについて説明を受ける学生たち



学生たちからたくさんの商品アイデアが出されました

2 発案

どんな商品・デザインが
いいかな



4年生 / 村上翔汰さん

- もへじと東海大学学生チームが特産品アイデアを出し合い、アレンジを加え4商品の案に絞り込み
- 商品パッケージデザインは、学生チームの意見を参考にして決定